

地域のわ通信

特別編

神奈川県地域づくり大学校

発行 ▶ 区政推進課 地域力推進担当 411-7026

報告

■第1講 開催概要

■日時：令和2年11月8日（日）
9：30～12：30

■場所：神奈川県役所5F 大会議室

■参加者：25名*申込数30名

（内訳）10代…2名 30代…1名 40代…11名
50代…6名 60代…5名 70代…5名

■主催：・神奈川県連合町内会自治会連絡協議会
・神奈川県役所
・認定NPO法人 市民セクターよこはま

■協力：社会福祉法人 横浜市神奈川県社会福祉協議会

■テーマ：

【これからの地域づくりを考える ～地域活動における求められる変化と大切な変わらないもの～】

日頃の活動前提や生活様式が大きく変わった2020年。地域活動においても変化が求められる今期は、特別編として、全5回を通して活動の意義を分かち合い、工夫や知恵で新たな試みを進めていく、これからの地域づくりについて学び合います。

■プログラム

◆開校式 挨拶 神奈川県連合町内会自治会連絡協議会 佐藤潮会長 / 神奈川県 高田靖区長 / 認定NPO法人市民セクターよこはま 中野しずよ理事長

◆受講生による自己紹介タイム

◆オリエンテーション

◆講義①「コロナ禍における地域活動の現状」

社会福祉法人横浜市神奈川県社会福祉協議会 高橋博之事務局長

◆講演②「これからのことを想像する～地域の未来～」早稲田大学文学学術院 石田光規教授

◆グループ別ディスカッション・発表



◆開校式 挨拶



佐藤 連合会長

コロナの中、地域活動が困難になっていますが、ここでの学びをぜひ地域に活かしてください。



中野 理事長

活動が難しい時期ではありますが、地域の中に「恩贈り」の意識を大事に、活動を進めましょう。



高田 区長

コロナで地域の元気がなくなっています。参加されたみなさんの心意気を地域の活性につなげていただきたい。

◆講義① 「コロナ禍における地域活動の現状」

社会福祉法人 横浜市神奈川区社会福祉協議会 事務局長 高橋博之 氏

コロナで不安を抱える中、人と距離を取ることを求められ、地域での活動が困難な状況です。離れていてもつながるために何ができるのか。これまでの活動の目的をみんなで再確認し、孤立しやすい時だからこそ「気にかけていますよ」という思いを伝える工夫が必要です。大事なことは、地域づくりに「共助」の視点を持つこと。誰かのために何かをするという地域福祉の考え方を取り入れ、「活動者も参加者も楽しいと思えること」がポイントです。どんな地域活動でも、防災活動につながっています。人のコミュニティができていないと人は動きません。防災活動は、顔見知りの関係づくりがあってこそできるものです。



◆講義② 「これからのことを想像する～地域の未来～」

早稲田大学文学学術院 教授 石田光規 氏

少子高齢化に加え、単身世帯や未婚率が急増している社会で、地域のつながりの大事さを語られる一方で、地域のつながりが先細りする現状があります。さらにコロナにより、生活スタイルや親しい人との関係に変化が起っています。地域活動にもオンラインの流れがありますが、利点と欠点があり、今後の方向性として、対面接触をどのように入れておくか、補完する手段としてオンライン環境の整備などが考えられます。個人が重視される世の中ですが、それでも人はどこかに住むわけで、地域の中では、程よいつながりを活かした取組が期待されます。活動は、相手に対して過度に期待しすぎず気負わず楽しんで。オンラインはゆっくり活動に取り入れたらいいと思います。



◆グループディスカッション

テーマ「地域活動における求められる変化 と 大切な変わらないもの」

参加者からの意見（一部抜粋）

求められる変化

- ・オンラインの活用
- ・固定概念にこだわらないこと
- ・世代交代の必要性
- ・対面とオンラインの両方の良いところを取る

大切な変わらないもの

- ・対話の場をなくさない
- ・顔を見る機会は大事
- ・対面ができる居場所
- ・今あるつながり
- ・交流の場
- ・地域の歴史
- ・多世代のつながり

